

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基礎教育 教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号								
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す								
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
S520003	小宮秀明	解剖学	健康増進施設などの指導員のテキストに記載されている身体の骨、筋肉、神経系、循環器系の名称を人体標本を用いて説明を行う。特に運動器については具体的な運動と関連させ説明を行う。	現在、生活習慣病や骨粗鬆症などの社会的に問題となっている事象について解剖学分野から健康科学に関する知識を得ることは重要である。スポーツ・健康領域の領域科目の内、運動生理学、運動発達論や運動学などの基礎学問として身体の各部位の名称とその役割を系統的に理解する。	解剖学のなかでも骨格系、筋系、脈管系、神経系の構造について理解し基礎知識を修得することにある。とくに運動器官である骨格系、筋系については、将来、健康増進施設やフィットネスジムでトレーナーや運動指導者にとって非常に重要になってくるので、骨標本、筋標本、関節標本などの名称とその役割が理解できる。	0	0.1	0	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	
S508006	黒後 洋	体育原理	教育概念に基づく体育概念を理解し、従来の学校体育・社会体育論を批判的に検討することを通して、体育論・スポーツ論に関する基礎的理解力を習得する。	学校教育における体育・スポーツの諸問題を理解すると共に、教師としての役割等について理解を深める。	・体育原理に関する基礎理論の習得。 ・体育概念に関する基礎的アプローチ法の習得。 ・スポーツ概念に関する基礎的アプローチの習得。 ・体育・スポーツに関する諸問題の理解。	0	0.1	0	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	
S513000	小宮秀明	生理学	生理学の基礎から応用について全15回で行うものである。まず、身体の神経、呼吸、血液、循環、内分泌などの基本となる生理機能について概説する。このことを踏まえ身体活動や健康分野に関する基礎的な内容について解説を行う。また、身体活動の安全性やパフォーマンス向上等を含め講義する。	現在、メタボリックシンドロームや生活習慣病などの社会的に問題となっている事象について生理学分野から健康科学に関する知識を得ることは重要である。また、健康関連分野に就職をする場合に必要となる人体の基本的な機能について解説を行い、メタボリックシンドロームなどの要因についても内分泌、循環器系の立場からの理解を深める。	本講義では授業計画に示すように身体の機能的メカニズムを十分に理解することが必要となる。さらに運動場面においてどの様に身体の諸機能が変化するかを明らかにし、生理学から運動生理学へ系統的に説明を行い、各臓器や器官と運動を有機的に結びつけることができるようになる。	0	0.1	0	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	
S524001	小宮秀明	運動生理学	生理学で学習した内容を基礎として、スポーツ関連施設や行政機関において実際に活用できる内容について授業を展開する。	社会的に問題となっている運動不足やそれらによってもたらされる生活習慣病の予防について運動生理学の立場から省察することは重要である。これまで習得した解剖学、生理学を基礎とし、運動場面での身体の機能について学ぶ。	運動中及び運動後の安全管理と障害の予防および運動パフォーマンスの向上について基礎的知識を理解ができる。	0	0.1	0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	
S523005	加藤謙一	運動発達論	誕生から老年にいたるヒトの運動発達の特徴を展望し、スポーツ運動系の運動学習や運動指導について学ぶ。	スポーツ指導の前提条件となる学習者の発達、すなわち就学前の子どもから高校生、さらに成人の運動発達の特徴を理解する科目として意義を持つ。	・就学前の子どもから老年に至る各年代における具体的な運動指導の計画を作成することができる。	0	0.1	0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	
S512003	加藤謙一	運動学	運動学習論および力学、生理学、解剖学などの基礎知識をもとに体育の学習指導やスポーツのコーチングの方法について習得する。	運動学習論やバイオメカニクスなどの専門理論を通して体育やスポーツの各種目の指導力を高める科目としての意義を持つ。	・運動学習論の理解およびスポーツバイオメカニクスについて理解を深める。 ・理論的な観点から運動指導の具体的方法が理解できる。	0	0.1	0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S509509	松村司朗	体育・スポーツ経営管理学	スポーツという行動がどのような仕組みのもとで成り立っているのか、その経営学的背景を知るとともに、体育・スポーツ指導者に必要な経営管理学上の技術・知識・考え方を探る。あわせて、受講者自身の運動学習の体験やその考え方を発表し、討議する力も習得し、体育・スポーツの経営者・管理者・指導者(教員)養成に資する。	「スポーツ健康領域専門科目」として、体育・スポーツを実践・指導するための経営管理についての知識と技能を育成する。	・ 体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・ 体育・スポーツの経営管理学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S514006	久保元芳	衛生学及び公衆衛生学	衛生学は人々の疾病の予防、健康の保持増進のための原理について、公衆衛生学は集団としての人間の健康の保持増進を図るために環境や社会のあり方などについて講義する。具体的には、環境、疾病構造、生活習慣、ライフステージ、社会制度等と人々の健康との関連について解説し、我々が健康な社会の創造に向けて何をしなければならないのかを考える契機とする。なお、衛生学公衆衛生学の範囲は広範にわたるので、日常生活とできるだけ関連のある内容について扱う。	スポーツ健康領域の専門科目の一つであり、高等学校の教員免許「保健体育」、保育士資格を取得するための必修科目でもある。学校や地域社会等における集団の健康を保持増進していくための基礎的な知識と技能を養成する上で意義を持つ。	・ 健康の概念、環境衛生、感染症、生活習慣病、精神保健、母子保健、疫学等の衛生・公衆衛生に関わる重要かつ基本的知識を習得し、説明できるようになる。 ・ 集団としての人間の健康の保持増進を図るために自分自身ができることを、本授業で学習した内容を基に思考し、提案を示すことができるようになる。	0	0	0	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1
S754503	小宮秀明	スポーツ医学	今日、スポーツ医学は医学界において一つの専門分野として認識されている。一般市民を対象とした健康の維持・増進に対する考察にはじまり、青少年や競技選手に見られるスポーツ傷害の診断・治療に関する問題、他方では高血圧症や高脂血症・糖尿病など現代人の持つ生活習慣に起因する種々の病態の予防と治療、さらには心筋梗塞罹患者後の社会復帰を図ること等きわめて範囲は広く、これらのことを学習する。	健康や疾病に関する理論的な事象を学び、個々人の体力や疾病に応じた運動の処方箋を提示することは意義深い。健康増進施設において体育や医学的な基礎的知識と運動処方の作成・提示が可能な能力を育成する。	スポーツ指導者に求められるスポーツ科学と医学知識の修得を目標としている。また、スポーツ指導者や健康教育に携わる人達はこの領域の重要性を理解してもらい、この分野への基礎的な知識を修得すること。	0	0	0	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
S527000	松村司朗	武道学概論	武道学の骨組みを概説する。特に、武道領域で使用される特殊な言語、たとえば「捨て身」や「残心」などの武道言語に着目し、東洋的な心身論として武道文化論を展開する。また、現代体育学における心身論との比較をとおして、武道実践の「あり様」と、健康および運動学習・運動指導への「あらたなあり様」についても示唆し、指導者(教員)養成として受講生の学習力と指導力の養成に資する。	「スポーツ健康領域専門科目」として武道学を概説し、体育・スポーツの実践・指導に必要な「武道的(東洋的)心身論・実践論」の知識を修得する。	・ 武道学として学んだこと、考えたことをレポートで論理的に表現できるようになる。 ・ 武道学として学んだこと、考えたことを口頭で発表できるようになる。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基盤教育 教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号								
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す								
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
S528007	茅野 理子	舞踊学概論	舞踊は特別な人だけに享受されるものではなく、本来は全ての人々の生活に根ざした身体表現を根幹とすることを改めて認識し、様々な舞踊文化について学ぶとともにそれが生み出された背景について考察することを通して「舞踊とは何か」を問い直す授業にしたい。	スポーツ健康領域専門科目であり、「舞踊学」としての学問体系を深く学ぶことを目標とする。	日常場面での身体表現について探究することでコミュニケーションにおけるその重要性を認識すること、様々な教育現場での「ダンス」領域の指導理論とその実際について理解を深めることを到達目標とする。	0	0	0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.1	
S510000	加藤 優	体育・スポーツ社会学	スポーツは、政治・経済・教育などさまざまな分野で大きな影響力をもって展開されている。本授業では、スポーツとその他の社会や文化との関わりについて具体的な事例を挙げながら学ぶ。	本授業はスポーツ健康領域専門科目における選択科目であり、スポーツの諸問題を理解すると共に、地域のスポーツ指導者としての役割等について理解を深める。	本授業科目はスポーツの高度化と大衆化という社会現象を踏まえ、スポーツと社会・文化との関わりに焦点を当て、その背景にある社会性と内在する問題の存在について理解し、検討することを目標とする。	0	0	0	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	
S509002	西田 順一	体育・スポーツ心理学	運動・スポーツと心の関係を以下の3つの観点から取り上げ、指導のあり方について講義する。 1) 運動・スポーツが心にどのような影響を及ぼすか 2) 運動・スポーツを学習するとき、どのように心が保たれるか 3) 運動・スポーツを行うときにどのように心が関与するか	スポーツ健康領域専門科目における選択科目であり、高等学校の「保健体育」免許を取得するための選択科目でもある。学習者の立場に立った指導を行うために必要な基礎的な知識と指導力を養成する。	・運動学習とパフォーマンスに関する心理学的研究の成果について理解する。 ・体育・スポーツの場における効果的な指導法について工夫する力を養成する	0	0	0	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	
S750508	黒後 洋	スポーツ文化論	今日われわれが享受しているスポーツの多くは、産業・情報化社会の発展とともに普及し大衆化されたものである。本講ではこうした「現代社会とスポーツ」について文化論的見地から検討を加え、スポーツが人間にとって持つ意味と役割について考究する。	現代社会とスポーツに関する諸問題を、スポーツ文化論的見地から分析・検討するとともに、議論する能力を養う。	・スポーツ文化論に関する基礎的理論の習得。 ・スポーツに関する諸問題の理解。 ・スポーツに関する諸問題を議論する能力の養成。	0	0.1	0	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	
S530001	小宮秀明	体力測定実習	定期健康診断時の形態計測と視力を実際に測定する。自動化された測定機器についてその測定法を実習する。	現在問題となっているメタボリックシンドロームの診断基準であるウエスト周囲径の測定の意義を理解することは重要である。スポーツ施設や健康増進施設において実施される体格測定及び体力測定の意義と測定法を理解する。	健康増進施設やフィットネスジムにおいて定期的実施される体格測定の基礎と実践力を身につけるため、実習形式による身体計測及び体力測定の測定方法と基礎的な知識を学習する。定期健康診断や体力測定の企画・運営を行い、職場においてもその指導力が発揮できるようにする。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1	
S567100	小澤 武史	子どもの保健	心身の問題だけでなく、栄養、生活、母子関係、環境、関連する社会制度や施策などの基本的知識を学ぶ。	総合人間形成課程の領域専門科目であり、子どもの健康や子どもが置かれている社会環境について自分たちの時代と比較しながら現在の小児保健に関する問題点を明らかにする	「子どもは大人のミニチュアではない」ことを心と体の両面から理解し、「心と体の健康な子ども」の発育・発達に必要な医学や看護の知識を学び、自信とゆとりと喜びを持って子育て・保育・教育に対応できる保育者(親・保育士・教諭)の卵になる人材育成を目指す。	0	0	0	0	0.3	0.2	0.2	0.3	

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基盤教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S561007	大森玲子	栄養学	各栄養素の種類や代謝、生理作用について、また、エネルギー摂取量や消費量のアンバランスが生活習慣病に繋がること等について講義する。	環境創造領域およびスポーツ健康領域の選択専門科目の一つであり、人間生活を営むために不可欠な食や健康、栄養についての基礎知識を修得する。	・現代の食における課題について理解し説明することができる ・各栄養素の種類や代謝・生理作用について基礎知識を修得する ・エネルギー代謝と算出方法をともに、実生活で実践できる	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
S522009	西田 順一	体育・スポーツ統計	スポーツテストのデータ処理を始め、専門書の講読、卒業研究の取り組み等においても必要とされる統計的方法についての知識について、数式よりも意味や使い方を重視して講義する。	スポーツ健康領域専門科目における選択科目であり、専門書講読、及び卒業研究遂行の際に必要な基礎的な知識を修得する。	・スポーツテスト、実験、調査等で得たデータの処理方法を修得する。 ・自然科学の研究に不可欠な道具である統計的方法の本質、仮説検定の仕組みなどを理解する。	0	0	0	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S526004	高岡 宣子	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションは、オタワ憲章(1986)の中で「人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス」と定義された概念であり、健康増進や健康づくりと同義である。わが国では、平成12年より健康日本21が健康づくり運動として開始され、生活習慣病になる前に予防するというところに重点を置き、生活習慣の改善に取り組んでいる。本講義は主に国民の健康づくり対策のアプローチについて学ぶものである。	スポーツ健康領域の専門科目の一つであり、社会教育主事の資格取得するための選択科目でもある。地域社会等において食育、運動指導等の健康教育を適切に実践していくための知識や技能を習得することに対応している。	・現代人の生活習慣と健康状態について理解できている。 ・ヘルスプロモーションの理念、考え方について理解し、説明できる。 ・健康日本21の目的や概要について理解できている。 ・栄養・運動・休養の3本柱からの健康づくりを実践でき、生活習慣病を予防するための健康教育ができる。	0	0.1	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
S515002	久保元芳	学校保健	学校現場において子どもの健康や安全を守っていくための「保健管理」、また、健康や安全の保持増進に関わる子ども自身の能力を育てていくための「保健教育」についての基礎的な内容について講義する。その際、受講生がこれまでの学校生活で体験したことや感じたことを取り上げながら進める。	スポーツ健康領域の専門科目の一つであり、高等学校の教員免許「保健体育」を取得するための必修科目でもある。学校という場において行われる様々な保健活動を養護教諭、学校医、学校歯科医、保護者等と連携しながら企画・運営してけるための知識と技能を養成する上で意義を持つ。	・学齢期の子どもの健康や安全を保障するための主要なシステムや活動、担当者の役割等について理解できている。 ・健康や安全に関わる子ども自身の実践力を育成するためのアプローチのあり方について、思考することができる。	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
S753507	植田 俊夫	スポーツ指導論	人々がスポーツを行う意義や利点について解説を行う。また、スポーツ関連企業や地方自治体においてもスポーツの振興は重要であり、それに伴ったスポーツ指導者の育成と施設整備の必要性について解説する。	近年、スポーツへの関わり方も多様化し、スポーツの役割は社会の中で重要な位置を占めるようになってきた。運動を通し、体力や健康の維持増進にも必要不可欠である。そのためにはスポーツに関する幅広い知識と実践力を身につけ、効果的な指導法について習得する。	本講義は、スポーツ指導に関する基礎的知識を習得し、指導者としての実践力を育成することにある。また、指導計画の実例においては専門領域における指導法及び日本体育協会、各種スポーツ団体における指導者養成システム等について理解することができる。	0	0	0	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S754007		メンタルトレーニング論	練習で身につけた競技力を試合という緊張の場で十分に発揮するためには、不安の除去、あがりの防止などの自己コントロールと、集中力、やる気、忍耐力や闘志などの心理的能力の向上が不可欠である。本授業では、メンタルトレーニングの講義と実習を行う。	スポーツ健康領域専門科目における選択科目であり、メンタルトレーニングの知識、および実践的指導力を養成する。	・パフォーマンスのレベルと心理状態との関係について理解する。 ・理想の心理状態に導く様々な心理的スキルについて実習を交えながら理解を深める。 ・心理的問題の克服に向けて適切な工夫ができるよう実践的指導力を修得する。	0	0	0	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S525008	加藤謙一	トレーニング科学	スポーツの競技力向上や健康体力づくりを効果的に実践するためのコーチングや指導に関する科学的原理を理解することである。	各種スポーツを行う上で、前提条件となる科学的原理や実践方法を理解する科目として意義を持つ。	・スポーツの競技力向上や健康体力づくりを効果的に実践するためのコーチングや指導に関する科学的原理を踏まえて、トレーニング計画を作成することができる。	0	0.1	0	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1
S752500	黒後 洋	スポーツ情報処理	授業は毎回パソコンを利用した演習形式で行う。Wordによる文章作成では、HP作成を考慮した構成で、ウェブ上のHP等から情報収集し作成する。Excelによる表計算では、専門種目に関するデータの集計を中心に統計処理をした上で、表及びグラフ等を作成する。また、マルチメディアを利用したプレゼンテーションを個人の課題とする。	体育・スポーツに関する諸情報について、文章処理、統計処理、表計算、インターネット及び、電子メールの利用等、コンピュータの的確な活用能力を習得する。また、これらを有効に利用して効果的なプレゼンテーション能力を習得する。	・wordを使用した表現力の習得。 ・excelを使用した情報処理能力の習得。 ・ppを利用したプレゼンテーション力の習得。	0	0.1	0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1
S752004	平野智之 他	野外運動演習	組織キャンプの計画方法及び運営方法の指導を行う。また、組織キャンプの意義や教育効果について講義する。	自然体験活動の実践力を高める科目としての意義を持つ。	・組織キャンプの意義を理解する。 ・組織キャンプのプログラムを実践できる。	0	0	0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.1
S759009	茅野 理子	ダンスセラピー	ダンス・セラピーは、舞踊を治療教育や精神科医療に役立てていこうとするもので、その理論的背景や方法について実習を通して学び、その導入とする。	スポーツ健康領域専門科目であり、「ダンスセラピー」についての知識と実際を深く学ぶことを目標とする。	・ダンスセラピーに必要な基礎的知識と技術を体得することができる。 ・ダンスセラピー実践における基本的な知識と技能を習得することができる。	0	0.1	0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2
S802508	長谷川万由美	社会福祉学概論	社会福祉援助のために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史、社会福祉援助技術の体系、思想などを考えていく。	地域公共領域の専門科目として、今後、地域社会における社会福祉の問題を考えていく上での入門となる。	・社会福祉を歴史を踏まえて理解する ・日本の社会福祉の法制度や組織について把握する ・社会福祉援助技術の方法論とその背景にある対象把握の考え方を理解する ・現代の社会福祉を考える上で基本となる思想について知識を得る	0	0	0	0.3	0.3	0.2	0	0.2
S815502	長谷川万由美	地域福祉論	地域福祉の現状と課題を把握し、社会福祉援助技術としての地域援助の方法について学ぶ。	専門教育科目として、地域社会や地域公共を担う行政についての理解を深め、卒業論文やプロジェクト実行への基礎となる科目である。コミュニケーション演習やプロジェクト研究で培った力を実践する。	・地域福祉について自分で問題を発見し、解決方法を検討できる ・地域援助の実践を通じて現場の解決方法を学ぶ ・地域援助の実施過程を通じコミュニケーション力を高める	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.4	0.1
S579000	赤塚 朋子	生活福祉論	生活や福祉の基本的概念をふまえて、生活者から問う福祉社会のあり方を検討し、生活福祉のあり方を模索します。	総合人間形成課程の領域専門科目の一つとして、生活や福祉に関する基礎的知識を幅広く提供し、この分野への関心を喚起する。	生活者の視点から福祉をとらえ、生活の福祉とは何か、生活福祉のあり方とはどうあるべきか、について考察し、変化化する社会から発生する生活問題の原因を検討し、その解決の方策を考えることを目標とします。	0	0.1	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基盤教育 教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号								
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す								
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
S578004	良香織	児童福祉論	子どもを取り巻く様々な生活問題を認識し、児童福祉分野による対応施策を学ぶことを目標とする。「児童虐待」など子どもの社会的排除を主とする課題認識を手がかりに、歴史的に築かれてきた「児童福祉」の理念・法律・サービス等に関する理解を深め、ひいては「子どもは他者や社会との善い関係(社会的包摂)が保障されてこそ、ゆくゆく育ちや幸福を経験することができる」という命題を跡付けていく。	児童福祉政策の多くは各種法律に基づいたため、それをひとつの参照点として授業を展開する。	・子どもを取り巻く様々な生活問題を認識する。 ・児童福祉分野による対応施策を学習する。	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	
S108008	平野智之	野外教育	野外教育は、今日の文明社会で共通体験として望まれる豊かな自然環境のもとでの児童生徒たちの体験活動の指導の基本について理論的かつ実践的に学ぶことを目的とする。小・中学校教育の場では、自然体験活動を一層長期にわたって実施する取り組みが進められ、これら学校のすべての教員がこの種の体験活動を指導する能力が求められている。	環境創造領域とスポーツ健康領域の領域専門科目の選択科目であり、野外における自然体験学習を通じて自然の大切さや環境保護の重要性を学習する科目である。	○自然の中での諸活動を自ら行う知識及び技能。 ○子どもに応じて自然の中で積極的に活動する態度を育てるための基本的知識及び技能。 ○活動の中で得られる体験的知識と教科等の学習内容を適切に結びつける基本的知識。	0	0	0	0	0.1	0.3	0.4	0.2	
S758509	非常勤講師	テーピング・マッサージ演習	マッサージに関する基礎的知識について解説を行い、各部位ごとに体幹・上肢・下肢を中心にペアを組みマッサージ実習を行う。次にテーピングに関する基本的な処置方の説明を行い、ペアを組み実際にテーピングを行う。	本授業科目は実践的な内要素を多く含んでおり、スポーツ障害などと関連づけ疾病の予防や治療に関する幅広い知識を興味関心を喚起する。	スポーツ活動において起こる怪我は、その後の競技生活や生活スタイルに大きな影響を与えることがある。そのため、怪我をしないためのコンディショニング、怪我をした場合の応急処置を知る事は、スポーツと関わる上で重要である。本講義では、応急処置、再発予防、コンディショニングとして用いられるテーピング、スポーツマッサージの技術を獲得する事を目的とする。	0	0	0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	
S504000	松村司朗	武道A	伝統的な剣道(武道)稽古の意義や方法を理解し、実践してみることで、スポーツ・学校体育における運動指導一般のあり方を問い直してみる。生涯体育のあり方として、勝敗を競う、運動の楽しさ、仲間との連帯感、健康の保持・増進などについて、「生きる力・自己教育力・新しい教育観」と、剣道の文化性として伝承されてきた「伝統的な稽古観」との違いを比較検討する。そのなかで、「開かれた創造性を身につける」に対する「閉ざされた創造性を身につける」の意義を理解し、両者の実践ができるようにする。	「スポーツ健康領域専門科目」として、武道、特に剣道の実践・指導に必要な知識と技能を育成する。	・剣道(武道)の礼法・作法を理解・実践し、指導できるようになる。 ・「剣道の基本技」を演武し、指導できるようになる。 ・応用技への展開ができるようになる。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組みため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S531008		テニスA	運動好きと結びつく体育授業として、「快適な運動」「技能の伸長」「明るい交友」「新しい発見」の4つの条件があげられている(高田, 1976)。本授業ではテニスを実技教材として、初心者がゲームができるようになるまでの学習過程を取り上げ、実践的指導力の育成を図る。	スポーツ健康領域専門科目における選択科目であり、高等学校の「保健体育」免許を取得するための選択科目でもある。基礎的な実技能力および指導力を養成する。	・テニスの特性、技術構造、ルール、マナー、戦術、練習方法等を理解する。 ・テニスの基礎的技術と戦術を修得する。 ・初心者指導における留意点を理解するとともに、実践的指導力を高める。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S507000	黒後 洋	バレーボール	個人・集団の基礎的技術の習熟とともに、初心者にはバレーボールを楽しむゲームを成立させるために「どんな条件を整え、どんなルールを独自に創造すれば良いのか」という点について、実技を通して習得する。	学校や社会でバレーボールを実践する実技力や指導力を深める。	・基本的な個人・集団実技能力の習得。 ・6人制の基本的なゲームルール及び審判法の習得。 ・実技レベルに応じた教材の選択とルールの適用。	0	0.1	0	0.4	0.1	0.1	0.2	0.1
S533000	平野智之 他	スキー	基礎的なスキー技術の実技指導を行う。また、スキー技術・スキー指導法等の理論を講義する。	自然体験活動の実践力を高める科目としての意義を持つ。	・スキーの基礎的な理論を理解する。 ・スキーの基礎的な技術を習得する。	0	0	0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.1
S503004	茅野 理子	ダンスA	運動、イメージ、構成課題などを手がかりとした課題学習を中心とし、踊る・創る・観るというダンス技能の基礎習得をめざす。それとともに、様々な教育現場におけるその指導法を実習する。あわせてフォークダンス、レクリエーションダンスなども実習する。	スポーツ健康領域専門科目であり、ダンスの基礎的知識と技能を深く学習し実践する。	・ダンス実践に必要な基礎的知識と技術を体得することができる。 ・ダンス指導における基本的な知識と技能を習得することができる。	0	0.1	0	0.2	0.1	0.2	0.3	0.1
S505007	岩崎 研一	サッカー	サッカーの知識(歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等)を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。	スポーツ健康領域の選択科目として、サッカー指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	・サッカー指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・サッカー指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・サッカーの指導法を習得する。	0	0.1	0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4
S506003	非常勤	バスケットボール	バスケットボールの知識(歴史、特性、技術構造、指導法、ルール等)を理解するとともに、基礎技術・戦術を習得し、その指導法について学ぶ。常に指導者の立場を想定して実践を行う。	スポーツ健康領域の選択科目として、バスケットボール指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	・バスケットボール指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・バスケットボール指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・バスケットボールの指導法を習得する。	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4
S500005	安里 春雄	体操・器械運動	器械運動(マット・跳び箱・鉄棒)の技能と指導法について学ぶ。	スポーツ健康領域の選択科目として、器械運動の指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。	・器械運動指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・器械運動指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・器械運動の指導法について習得する。	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基礎教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組み、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感を持ち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S501001	加藤謙一	陸上競技	生涯スポーツとしての「陸上競技」について理論と実践を通して、その能力や練習方法を理解する。	体育やスポーツの実技の専門的指導力を高める科目としての意義を持つ。	・短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び)の練習方法や指導法を習得する。 ・陸上競技における安全管理及び安全指導を習得する。	0	0.1	0	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1
S760503	茅野 理子	ダンスB	様々な舞踊文化の実習を通して、より高いダンステクニック、表現力の習得をめざすとともに、中学校、高等学校、社会体育等におけるその指導法を実習する。	スポーツ健康領域専門科目であり、様々な舞踊文化の実際を学び、より高い技能を習得することを目標とする。	・ダンス実践の発展的知識と技術を体得することができる。 ・ダンス指導における応用・発展的知識と技能を習得することができる。	0	0.1	0	0.2	0.1	0.3	0.2	0.1
S532004	三宅 仁	武道B	柔道(武道)の歴史・特性を理解し、正しい基本動作や技術を身に付ける。安全な身の処し方を理解した後に、柔道の技として、投げ技、及び固め技の原理を一つ一つ学ぶ。さらに練習や試合を通すことにより、対人競技としての技能や能力を高めていく。また、柔道試合審判規定などについて理解を深めていく。	「スポーツ健康領域専門科目」として武道、特に柔道の実際・指導に必要な知識と技能を育成する。	・柔道(武道)の特性を理解する。 ・基本動作や個々の技能及び対人技能、試合などを通して、生涯スポーツに役立つ能力を修得する。	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4
S529003	非常勤	救急法演習	救急処置に必要な知識と技術を習得し、その場の状況や疾病の程度に応じて適切な処置法について説明する。スポーツ現場で頻繁に遭遇する整形外科的な処置や熱中症、水泳での事故に対応した適切な処置法について説明を行う。	実際の事故に遭遇した場合に備え、授業で学んだ事象について、ペアを組み演習形式で適切な対応ができることを目指す。	本講義では、日常生活における事故の防止、手当での基本、心臓蘇生法、AEDの使用法、搬送方、止血の方法などの知識や技術を身につける。また、子どもを大切に育てるために、乳幼児期に起こりやすい事故とその予防、手当の実際、かかりやすい病気と看護の仕方などの知識や技術を身につける。	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3
S502008	加藤謙一・小宮秀明・黒後洋・平野智之・久保元芳・非常勤講師	水泳	生涯スポーツとしての「水泳」について理論と実践を通して、その能力や練習方法を理解する。	体育やスポーツの実技の専門的指導力を高める科目としての意義を持つ。	・クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライの基礎技能tpそれらの指導法を習得する。 ・水中における安全技術及び安全指導を習得する。 ・臨海実習を通して自然理解を深め、自然保護の知識を習得し、さらに集団生活の中で規律ある行動、協力、リーダーシップ及びフアローシップの習得を目指す。	0	0.1	0	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1
S950600	全教員	スポーツ健康科学演習 I	本演習は卒業論文を作成するために必要な保健体育、スポーツおよび健康科学に関する分野の動向や課題について自ら問題意識を持ち、これらの課題を解決していくために必要となる調査方法、方法論、それに関連する文献検索法や統計学的手法を学習する。	スポーツ健康領域専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1

平成25年度教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (スポーツ健康領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技術と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S950605	全教員	スポーツ健康科学演習 II	前期に学習したスポーツ健康科学演習Aを継続しつつ、卒業研究の課題設定に向けて、各教員から指導・助言を受ける。	スポーツ健康領域専門科目における必修科目であり、保健体育、スポーツ及び健康科学における研究の動向や研究方法等に関する基礎的な知識と技能を養成する。	・保健体育、スポーツ及び健康科学における研究方法等に関する基礎的な知識と技能を修得する。 ・従来の研究の動向や課題について理解する。 ・自ら問題意識を持って課題を設定する能力と態度を修得し、卒業研究Aで取り組む課題を探る。	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
	全教員	卒業研究A	「スポーツ健康科学演習 I・II」の履修を踏まえ、各自師事する専門教員の指導によりスポーツ健康領域に関わる専門的なテーマについて卒業論文を作成する。	スポーツ健康領域の専門分野における自己設計カリキュラムによる学習の仕上げである。	各自の専門研究分野やテーマに応じ、思考法や先行研究例などを踏まえた有意義な問いあるいは研究目標を立てることができる。課題解決へ向けて、資料収集や観察などを独自に行い、先行する知見を検証することができる。論理的、科学的な立論により、自らの分析や見解を明晰に述べることができる。	0	0	0	0.2	0.2	0.2	0.3	0.1